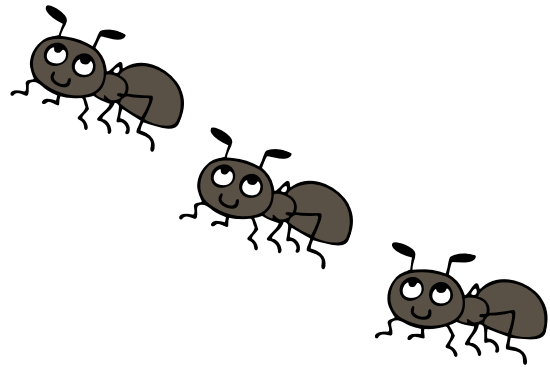


論理的に考える力をはぐくむ学習指導の工夫

～「読む活動」と「書く活動」を工夫した説明的文章の指導を通して～



那覇市立松川小学校教諭

長嶺 奈々子

目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	2
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	2
V	研究内容	3
1	論理的に考える力について	
(1)	論理的に考える力	
(2)	考える力を中核とした学習活動	
2	説明的文章の特徴について	
3	「読む活動」と「書く活動」の工夫について	
4	理解し評価しながら読む活動について	
(1)	理解し評価しながら読む活動	
(2)	論理的に考える力との関連	
(3)	発達段階に応じたつけない力	
(4)	評価読みの能力の育成	
①	教材分析	
②	発問	
③	ノート指導	
VI	授業実践	6
1	単元名	
2	教材名	
3	単元目標	
4	単元について	
(1)	教材観	
(2)	児童観	
(3)	指導観	
5	単元の評価基準	
6	指導計画	
7	本時の学習	
(1)	目標	
(2)	授業仮説	
(3)	展開	
VII	結果と考察	9
VIII	研究成果と課題	12
1	成果	
2	課題	
	《主な参考文献と資料》	

論理的に考える力をはぐくむ学習指導の工夫

～「読む活動」と「書く活動」を工夫した説明的文章の指導を通して～

那覇市立松川小学校教諭 長嶺奈々子

I テーマ設定の理由

情報の伝達手段が発達した現代社会では、テレビやインターネット、多くの書物から情報を得ることができる。これらの中には、信頼性の高いものもあれば、そうでないものも含まれている。このような社会状況の中で、児童が必要な情報を選択し正確に読み取るためには、情報が正しいかどうかを判断し、内容について筋道を立てて考える力が必要となってくる。

これに関連して、文部科学省がPISA調査の分析結果から取り組みを立ち上げた『読解力向上プログラム』（平成17年12月）では、現行学習指導要領国語の「自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力」や、「目的や場面に応じて適切に表現する能力」、「目的に応じて的確に読み取る能力」を育成することにふれ、「PISA型読解力と相通ずるものがある。」と記載している。これは、PISA調査から明らかになった課題と学習指導要領が重視している能力の共通点が述べられており、課題解決のために「考える力を中核とした読む活動と書く活動」の充実を図ることを指摘している。その後告示された小学校学習指導要領解説国語編総説（平成20年8月）には、「課題を踏まえ、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」が明記され、筋道を立てて考え表現する能力を重視していると捉えることができる。

さらに、『全国学力・学習状況調査分析説明会分析資料』（那覇市教育委員会平成20年10月）から、本市の国語科の課題の一つに、「自分の考えをまとめ、様々な目的や条件に即して相手に伝わるように書く力が弱い。」ことが指摘されている。その要因としては、自分の考えをまとめるために目的や場面に応じて読む活動や、本文に基づいて自分の思いや考えを相手に伝わるように書く活動の工夫が不足していたのではないかと考える。

これらの社会的背景や本市の課題から、国語科の学習活動において自分の考えをもち表現するために必要な論理的な思考力を育成することが求められていると考えられる。そして、筋道を立てて考えるための能力をはぐくむためには、筆者の論理的な見方や考え方によって書かれた説明的文章の指導が効果的であると考えられる。

そこで本研究では、説明的文章において、考える力を中核として「読む活動」と「書く活動」の工夫を行い、筆者の文章の書き方のよさや問題点を読み取り、根拠に基づいて自分の考えを書くことで、論理的に考える力が育成できであろうと考え本テーマを設定した。

II 研究目標

説明的文章の学習において、論理的に考える力をはぐくむための「読む活動」と「書く活動」の指導方法を研究する。

Ⅲ 研究仮説

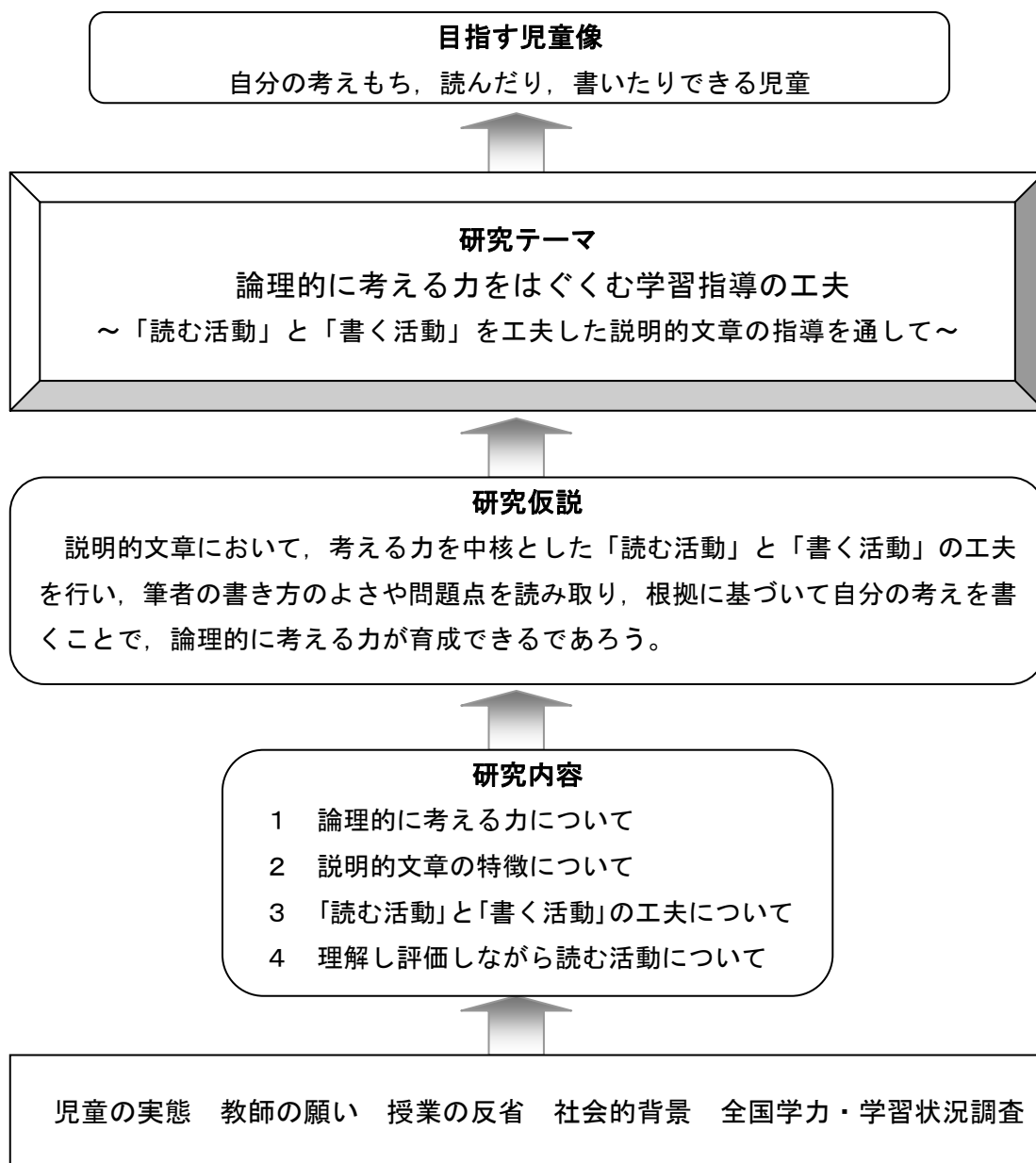
1 基本仮説

説明的文章の学習において、考える力を中核とした「読む活動」と「書く活動」の工夫を行い、筆者の書き方のよさや問題点を読み取り、根拠に基づいて自分の考えを書くことで、論理的に考える力が育成できるであろう。

2 作業仮説

- (1) 説明的文章の学習において、理解し評価しながら読む活動を行うことで、筆者の書き方のよさや問題点を読み取る力が育つであろう。
- (2) 説明的文章の学習において、本文から読み取ったことについて自分の考えをもち、根拠を添えて感想や意見を書かせることで、論理的な文章を書く力が育つであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 論理的に考える力について

(1) 論理的に考える力

三森ゆりか氏（2002）は「簡単に言えば、相手が理解できるように、筋道を立てて分かりやすく表現できること」を「論理的」と述べている。藤田伸一氏（2007）は、「相手に分かりやすく伝えるためにはどのように表現したらよいかを考える力」「相手を納得させるためにはどのようなデータを用意し、理由づけすればよいかを考える力」を「論理的思考力」と述べている。両者の主張に共通して述べられていることは、論理的に考えるためには「相手に分かりやすく」という相手意識が重要であるということである。

つまり、「論理的に考える力」とは、「根拠を用意し相手に分かりやすく伝える力」と捉えることができる。

(2) 考える力を中核とした学習活動

前述の文部科学省『読解力向上プログラム』では、考える力を中核に「読む力」と「書く力」を連動して読解力をはぐくむことが効果的であると提言している。そしてPISA型読解力向上のための学校での具体的な取り組みとして3つの重点目標を提唱している。

- | |
|---|
| ①テキストを理解し評価しながら「読む力」を高めること。
②テキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高めること。
③様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること。 |
|---|

これらは、授業改善の具体的な視点になると考えられる。そこで本研究では教科書の文章や資料を「理解し評価しながら読む活動」で「読む力」を高め、そこから読み取ったことに基づいて「自分の考えを書く活動」を行い「書く力」を高めることが、その中核にある考える力、つまり「論理的に考える力」をはぐくむことができると考える。

2 説明的文章の特徴について

『説明文教材の授業改善事例集(瀬川榮志他)』（1996）では、「説明的文章は、ある事項を相手により詳しく分かるように、しかもはっきりさせるためにある。」と述べている。

また、河野順子氏（2009）は、説明的文章の読みについて「児童の受け取り方の違いから問いが発生し、考えを出し合い、疑問や批判的な見方の芽が形成される。」と述べている。

これらのことから、説明的文章の読みでは、書き手である筆者が伝えたいことを相手に詳しく分かるように書いた文章を、読み手である児童は「なぜ?」「どうして?」と立ち止まり確認したり、評価しながら読み進めていくことが可能だと考えられる。

つまり、筆者が捉えている主張や内容、表現や論理について、自分なりの見方や考えを形成することができるというのが、説明的文章の読みの特徴であると捉えることができる。

3 「読む活動」と「書く活動」の工夫について

論理的に考える力をはぐくむための「読む活動」と「書く活動」の工夫と具体的な手立てを下記のようにまとめた。

	工夫	具体的な手立て
読む活動	理解し評価しながら読む	説明的文章に書かれている内容を読み取り、理解するだけでなく文章や資料を評価しながら読んで考え、今まで気がつかなかった筆者の書き方のよさや問題点を読み取る活動を行う。
書く活動	自分の考えを書く	本文から読み取ったことについて、自分なりの見方や考え方を養い、根拠を添えて自分の感想や意見を書く活動を行う。

4 理解し評価しながら読む活動について

(1) 理解し評価しながら読む活動

有元秀文氏（2008）は、理解し評価しながら読むことについて「文章を肯定的に捉えて理解するだけでなく、筆者の意図を解釈することが必要であり、内容、形式や表現の信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさを読むこと。」と述べている。つまり、文章を理解し評価しながら読むということは、「どうしてこのように書いたのか」と筆者の書き方について疑問をもち解決を図りながら読むことであると捉える。

森田信義氏（2009）が提唱する「評価読み理論」では、理解しながら読む過程を「確認読み」、そして評価し自分の考えをもちながら読む過程を「評価読み」として読みの段階を位置づけている。

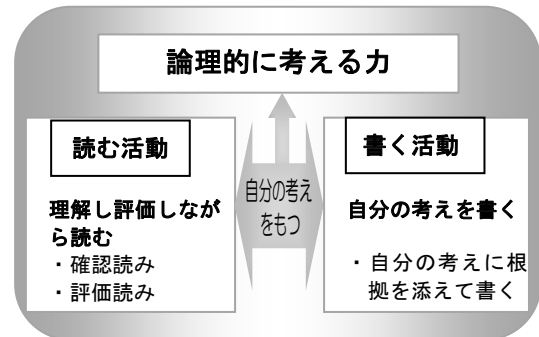
これらのことから理解し評価しながら読む活動とは、「確認読み」において基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、「評価読み」において基礎的・基本的な知識・技能を活用し、より深みのある思考力や確かな判断力を養っていくことであると考えられる。

(2) 論理的に考える力との関連

小学校学習指導要領解説国語編（2008）には、「本や文章を読んで、感じたこと思ったこと、考えたことなどを一人一人の児童がまとめ、発表し合う事項」が、全学年を通して新設されている。これは、自分の考えを形成することがこれからの学習には必要であることを示している。そして、読みとったことを整理し自分の考えを書くということは、思考を確認することにもなり、さらに理解を深めることにもなると考えられる。

本研究では「読む活動」、つまり文章や資料を理解し評価しながら読むことで自分の考えを形成する。そして「書く活動」、つまり自分の考えに根拠を添えて書く活動を行い、その相乗効果で「論理的に考える力」が育成できるのではないかと考える。（右図）

「読む活動」と「書く活動」で育成したい力



(3) 発達段階に応じたつけない力

読む活動を、理解し評価しながら読むという「確認読み」と「評価読み」で捉えた場合、評価し自分の考えをもちながら読む「評価読み」は、発達段階に応じてスパイラル的に取り入れたいと考える。低学年から指導を行い、学年が上がるにつれて積極的に取り入れることで、将来的に必要となってくる建設的な批判を伴う読み(クリティカルリーディング)の導入にも繋がると考えられる。

発達段階に応じて読む活動を行うために、小学校学習指導要領解説国語編「読むこと」の各学年の目標と内容における指導事項のうち、本研究に関連のある「説明的な文章の解釈に関する指導事項」「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」に着目した。これについて、「確認読みでつけない力」と「評価読みでつけない力」の視点で捉えたのが次の資料である。【表1】

【表 1】「確認読み」「評価読み」の視点で捉えた「読むこと」の指導事項でつきたい力

	確認読みでつきたい力	評価読みでつきたい力
低学年	イ 順序に沿って内容の大体を読んで理解することができる。 エ 時間や事柄の順序、文章の要点にかかわって文章の中で大事になる言葉や文を書き抜くことができる。 オ 本や文章の内容や構成を解釈することができる。	イ どのような文章を構成しているかという文章表現上の順序などを考えながら内容の大体を読んで理解することができる。 エ 読み手が自分の思いや考えを話したり書いたりするために必要となる言葉や文を書き抜くことができる。 オ 本や文章の内容や構成に対する思いや考えを明確に書きまとめることができる。
中学年	イ 段落相互の関係や事実と意見の関係を考えて読むことができる。 エ 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用や要約をすることができる。 オ 文書を読んで考え、まとめたことを発表し合うことができる。	イ 筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているのかをとらえることができる。 エ 読み手がそのような考えや感想をもつようになった理由、事例としてあげられている事実などの細かい点に注意しながら読むことができる。 オ 互いの感じ方や考え方の違いに気付くことができる。
高学年	ウ 目的に応じて、文章の要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読むことができる。 オ 本や文章を読んで自分の考えをまとめることができる。	ウ 筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことができる。 オ 児童それぞれが考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(4) 評価読みの能力の育成

評価読みの能力を育成するためには、教師が自ら教材を評価しながら読み、そのよさや問題点を明らかにする必要がある。そのための教材研究を以下のように整理した。

① 教材分析

教材文を全文書き出し、一文ずつ、または形式段落や意味段落など、分析箇所ごとに細かく読み、評価読みの視点で教材を捉え、今まで気がつかなかった筆者の書き方のよさや問題点に気づかせる。

観点	分析箇所	評価読みの視点
内容 表現	語句、文、文章（形式段落、意味段落）、事例（写真、絵、図表）など	よさ （読み手にとって分かりやすい、または納得できると思う部分）
関係	題名と本文、文章構成、主張と理由など	問題点 （曖昧さや不十分さから分かりにくいまたは納得できないと思う部分）

② 発問

教材分析で明らかになったよさや問題点について、発問で取り上げるかどうかを吟味・検討する。そのためには、児童の実態や発達段階を考慮することが重要であり、【表 1】のうち「評価読みでつきたい力」に記載した能力をはぐくむことができるかどうかを判断の基準とした。

発問の例として、「とても分かりやすい（分かりにくい）のはなぜか」、「とても納得できる（納得できない）のはなぜか」、「〇〇はあった方がいい（ない方がいい）のはなぜか」、「本文と題名はどんな関係があるか」、「段落と段落の関係はどんな関係か」、「筆者はなぜこの説明文を書いたのか」などが考えられる。教師は児童の主体的な読み取りを予測して向き合い、そこから考えを広げたり読みを深めたりできるようにする。

③ ノート指導

毎時間の学習の振り返りで「分かったこと」を書かせ、それについて「思ったこと」を書かせる。つまり、評価しながら読んで分かったことを根拠にして感想を書く活動を行う。自分の考えを書く活動は、思考の確認となり理解を深める。それと同時に論理的に表現することにも慣れていくと考える。

また、単元の終末における筆者の書き方の工夫を評価する学習においては、工夫している（納得できる）、または工夫していない（納得できない）と児童自らが「評価」し、「根拠」を明確にさせ、それについての「感想」を書かせる。児童が論理的に表現できるようにするために、文末表現（～だから、～と思いました。）を示すなどして支援する。

VI 授業実践（第2学年）

1 単元名 じゅんじょに気をつけてよう

2 教材名 すみれとあり（教育出版『ひろがることば』）

3 単元目標

確認読み	すみれの成長の特徴について、時間的な順序、事柄の順序などを理解しながら、内容の大体を読むことができる。
評価読み	文章や資料について、評価しながら読み、そこから読み取ったことについて自分の考えを書くことができる。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、すみれとありという身近な生き物の共存関係を題材にしながら、時間的な順序や事柄の順序に気をつけ、論理的な構成を確かに読み取ることを意図した教材である。すみれが意外な場所にも咲いていることに目をつけ「どうしてだろう」という疑問をもち、それを解明していく過程における「すみれが種をとばす様子」「ありが種を運ぶ様子」について時間的な順序・事柄の順序を考えながら読むことができる教材である。

本研究との関わりにおいては、理解し評価しながら読むこと、つまり「確認読み」「評価読み」を行う。そして、説明的文章の特徴である論理的な文章構成、問いと答えの関係が明確なこと、本文と対応した写真が載せられていることなどに着目させ、「筆者の文章の書き方のよさ」や「説明文のよさ」に気づかせるのに適した教材であると考えられる。

(2) 児童観

事前のアンケートの結果では、「国語が好きだ」と答えている児童は6割で、好きな学習内容の上位は、漢字、作文、音読、詩、文学作品の順であるが、説明的文章の学習は発表や視写と並んで下位の方にあげられている。その要因として、文学作品と説明的文章の区

別は意識していないことや、説明的文章のよさに気がついていないことも関心が低い要因だと考えられる。

書くことに関しては、「自分の感想や意見を書くことができる」と答えている児童は9割を超え、そのうち6割の児童が「自分の意見に根拠(～だから、～なので)を示して書くことができる」と答えている。しかし毎日の日記では、事実の羅列の後に「楽しかった。」「おもしろかった。」などの言葉でまとめ、具体的な理由を示すことは少ないように感じる。つまり、日常生活において相手に分かりやすく伝えようという意識や、必要性をあまり感じていないように思える。

(3) 指導観

低学年の説明的文章の指導の重要事項は、「順序に気をつけて読む」ことが、中心目標として位置づけられている。そこで、教材文の時間的な順序・事柄の順序を意識するよう、読みの方法を工夫したい。このことが、中学年における「大事な事柄を見つけながら読む」ことに繋がる力になると考える。

理解し評価しながら読む能力の育成には、【表1】を基に「確認読み」と「評価読み」を行う。評価読みでは「分かりやすい」「もう少し工夫すると分かりやすい」という評価読みの視点で本文や資料を読ませ、内容や筆者の意図を解釈することが必要である。指導にあたって、評価読みになれてない低学年の段階では、分析箇所を示して評価読みの視点を教師が与えたり、問題点を見つけるよりもよさを見つけることに重点を置いた指導が望まれる。

5 単元の評価基準

	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力 ※【表1】参照	言語についての 知識・理解・技能
確認読み	①身近な事柄に関心をもち楽しく読んだり書こうとすること。	①事柄を整理し順序に気をつけて書くこと。	①すみれとありの様子を順序に従って読み取ること。	①時間的な順序を示す語句に注意して文章を読むこと。
評価読み	②筆者の存在を意識して読もうとすること。	②自分の考えを書くとき、根拠を添えて書くこと。	②筆者の書き方のよさや問題点を見つけながら読むこと。	②主語と述語の関係を大体とらえて読むこと。

6 指導計画（10時間）

大きなめあて	時	段落	めあて
○順序に気をつけて読もう【確認読み】	1		新しい漢字を覚えよう
	2		すみれとありを読んで感想を書こう
	3		お話のまとまりを見つけて題名をつけよう
○やざまさんの書き方のよさを見つけながら読もう【評価読み】	4	①～③	すみれがどこにさいているか考えよう
	5	④～⑥	すみれはどのようにして種をとばすのか考えよう
	6	⑦～⑨	ありはどのようにして種を運ぶのか考えよう
	7	⑨	白い固まりについて考えよう
	8	⑩～⑪	答えの文を見つけよう
	9		やざまさんが工夫しているか考えよう
	10		学習後の感想を書こう

7 本時の学習

(1) 目標

「すみれとあり」が工夫して分かりやすく書かれているかどうかについて、自分の考えをもち、根拠を添えて感想や意見を書くことができる。

(2) 授業仮説

- ① 筆者の工夫を考える学習において、理解し評価しながら読む活動を行うことで、筆者の書き方のよさや問題点を読み取る力が育つであろう。
- ② 筆者の工夫を考える学習において、本文から読み取ったことについて自分の考えをもち、根拠を添えて感想や意見を書かせることで、論理的な文章を書く力が育つであろう。

(3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 本時の学習課題をつかむ 【一斉学習 5分】 やざまさんが くふうしているか かんがえよう	これまでの学習を振り返り、やざまさんの書き方の工夫を想起させる。	【関②】（観察） 筆者の存在を意識して読む。
展開 33分	2 自分の考えをワークシートに書く【個人学習 11 分】 全文を音読し「すみれとあり」が工夫して書かれているかを自分で判断し、その理由を書く。 発 すみれとありは、工夫して分かりやすく書かれていると思いますか。思いませんか。そのわけを考えましょう。  3 グループで意見交流をする 【グループ学習 12 分】 発 それぞれが書いた意見をグループで出し合って、同じ意見をまとめましょう。その中から一つ選び、選んだ理由も話し合って発表して下さい。	- 考えが書けない児童には、導入で確認した視点を個別に話したり、ノートを振り返ったり、文章に戻るなどして、考えがまとめられるように助言する。 - 考えが書けない児童のために、写真を取り除いた教科書のコピーを用意しておく。  【はっぴょうカードに記入する内容】 ①自分のかんがえに○をつけましょう。 ・くふうしている ・もう少しくふうするとわかりやすい ②どんなところからですか。 なぜなら からです。 ③どんなふうに思いましたか。 と思いました。	【読②】（観察） 筆者の書き方のよさや問題点を見つけながら読む。 【仮説①】理解し評価しながら読む 【書②】（ワークシート） 自分の考えを書くとき、根拠を添えて書く。 【仮説②】根拠を添えて自分の考えを書く

	4 グループ代表の意見を発表する【一斉学習 10 分】 	・ 友達の意見を知り考えを深めるために、グループで意見交流をさせる。 ・ やざまさんの書き方の工夫は説明文のよさであることを確認する。 ・ もう少し工夫すると分かりやすい部分については、どうすればよかったのかを児童に考えさせる。	
終末 7 分	5 まとめ【一斉学習 7 分】 授業で分かったこと、思ったことを分けてノートに書く。	・ 分かったことから思ったことを書かせる。	【書②】（ノート） 自分の考えを書くとき、根拠を添えて書く。

VII 結果と考察

【検証 1】 アンケート実施日 事前：6/24 事後：7/3 児童数 24 名

説明的文章の学習において、理解し評価しながら読む活動を行うことで、筆者の書き方のよさや問題点を読み取る力が育つであろう。

【結果】

資料 1 は学習前と学習後に実施したアンケート「教科書の文を読んで書いた人の工夫を見つけることができますか」の結果である。学習前は、「できる」「どちらかというところできる」の合算は 26%であったが、学習後は、68%と 40 ポイント増加した。

資料 2 は、筆者の書き方の工夫を評価したワークシートの一例である。

資料 3 は、資料 2 のワークシートにおいて、評価した観点が「内容」「表現」「関係」のどこに着目したのかを整理し、その代表的な意見を示した資料である。その結果「評価」の項目において「工夫している」22 名、「もう少し工夫すると分かりやすい」2 名。「根拠」と「感想」の項目についても全児童が記入することができた。観点の内訳は「内容」「表現」に着目した児童が 17 名、文章の構成や段落に関わる「関係」に着目した児童は 7 名であった。

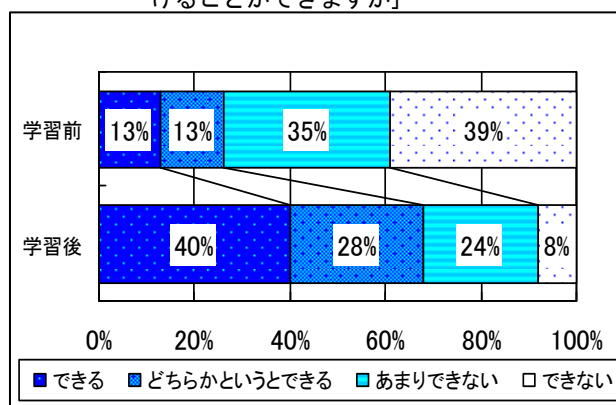
【考察】

説明的文章の読み取りにおいて「どうしてこのように書いたのか」と筆者の書き方について疑問をもち解決を図りながら読むことが理解し評価しながら読むことであると考えた。

これまでの学習では、筆者の書き方のよさや問題点に焦点をあて学習を計画することが少なかったため、よさや問題点に気がつかなかった児童が多くいた。

しかし資料 1 の結果から、筆者の書き方の工夫を読み取ろうとする意欲が高まってきたこと

【資料 1】「教科書の文を読んで書いた人の工夫を見つけることができますか」



資料2から、本時の学習において筆者の書き方のよさを見つけた児童は「工夫している」と答え、問題点を発見した児童は「もう少し工夫するとよい」と評価している。普段何気なく読んでいた文章や資料を、理解するだけでなく評価しながら読んで考え、今まで気がつかなかった筆者の書き方のよさや問題点を読み取り「評価」を行う。そして、なぜ自分がそう考えたのかという「根拠」をはっきりさせ、「感想」を書くことができた。このことから、筆者の書き方について理解し評価しながら読むことができたと考えられる。

一方で、「もう少し工夫すると分かりやすい」と評価した児童の中には、読み手の立場で「写真があるともっと分かりやすい。」と自分なり見方で解決策を考えた児童もいた。

【資料2】筆者の工夫を評価したワークシート

感想

いっしょにやると、わかっていなくて、お話をうけとらなれる。

と 思いました。

根拠

はじめに、中、おわりができていて、いかけの、おわり、そろり、と、書ける。

からです。

評価

わたくし(たちのグループ)は、やささんの書きかたに ついて

○へんういてある

○まっすぐにうすくと、わかりやすい

なぜなら

と思います。

もう少し工夫すると分かりやすい	工夫している			評価
○ありが（白い固まり）をとった写真だけど、取ろうとしている写真が足りないからです。 ◇あの写真があったら、分かりやすいと思ったからです。	○写真があるからです。 ◇写真があると、すみれが分からない人でも、こんななんだあって分かるけど、字だけならあんまり分からないと思ったからです。	◇始め・中・終わりがあるからです。 ◇「:」のです。「ゝ」いるのでしよう。「そのため」などの言葉が、使われていて分かりやすいです。	○説明（事例の説明）があるからです。 ◇説明がないと、どおしてなのか分からない。でも、説明があれば分かると思ったからです。	○根拠 ◇感想
内容	表現	関係		観点

今後の説明的文章の学習において、筆者の書き方のよさや問題点を見つけようと教材に深く関わっていこうとする、主体的な読みに繋がることが期待される。

説明的文章の学習において、本文から読み取ったことについて自分の考えをもち、根拠を添えて感想や意見を書かせることで、論理的な文章を書く力が育つであろう。

【結果】

資料 4 は、本時の学習において本文から読み取ったことに「根拠」を添えて「感想」を書いたワークシートの一例である。

資料 5 は、本単元の学習を終え、次の単元の導入の頃に書かれた宿題の日記である。

資料6は、学習前と学習後に実施したアンケート「自分の意見を書くときに理由を書くことができますか」の結果である。学習前に「できる」「どちらかというところ」と答えた児童の合算では56%で、学習後は68%となり8ポイントの増加している。その中で「できる」と答えた児童に焦点を絞ると30%から52%と22ポイント増加している。

【考察】

相手に分かりやすく伝えるために必要な根拠を用意し、感想や意見を書かせることが、論理的に書く力をはぐくむことになると思う。そこで毎時間の学習では、ノートに「分かったこと」とそれについて「思ったこと」を書かせ、自分の感想に根拠を添えて書く活動を行ってきた。

その結果、資料4のワークシートで、児童は自分の考えに○をつける欄には「工夫している」という評価を行い、根拠には「ピチッ、ピチッという音まで書いているからです。」と本文から抜き出し書いていることがわかる。感想では、「どんな音をして（種が）出てくるか知りたい人には分かりやすいと思いました。」と述べている。他の児童もワークシートに自分の考えを記入することができた。これらのことから筆者の書き方の工夫について、自分の考えをもち根拠を添えて感想を書くことができたと判断できる。資料3からも児童なりの見方や考え方が養われ、感想を書いていることが見てとれる。

【資料4】根拠を添えて感想を書いたワークシート

①じぶんのかんがえ
〇をつけましよう

②どんなところか

③思ったこと

感想

「どんな音を出てくるかし
りたい人がわかりやすい

と思いました。

根拠

ピッチピッチという音まで書いてい
る

からです。

評価

わたしたちのグループは、やぎさんの書きかたに
ついて
〇をふたつつけた
〇ももう少しふたつとわかりやすい
なせなら

と思います。

【資料5】学習後に書かれた宿題の日記

七月八日 水曜日
 きょうは、
 した。きょうは鳥のちえを書いたの
 うしめました。鳥のちえを書いたの
 は、ひぐちひぐちよしさんです。ひ
 ぐちひぐちよしさんは、やささん
 のように、はじめ、中、おわり、お
 たし、よしんもつけていました。わ
 いやすかったです。

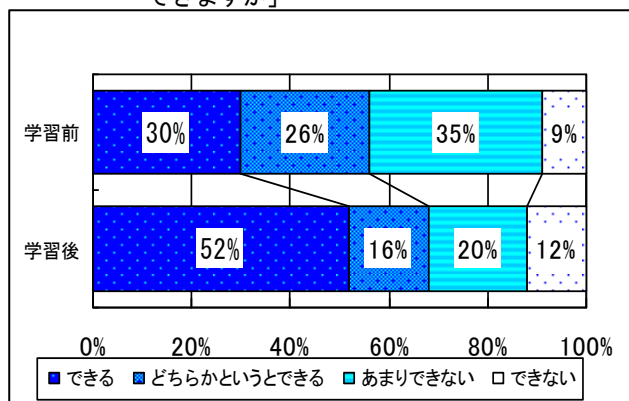
資料5は、次の単元の学習で、筆者の書き方のよさを自主的に読み取り、根拠（点線部分）を添えて感想（実線部分）を書いている例である。表現は十分とはいえないが、本単元で学

習した「理解し評価しながら読む活動」が活用され、自分の考えに根拠を添えて書いていることがわかる。このように、根拠を添えて感想を書くことができるような日記指導も併せて行くと効果的である。

資料6の結果では、自分の意見を書くときに理由を書くことが「できる」という児童数が22ポイント増えたことから、自分の意見を書くときに根拠を添えて書くことを意識し始めた児童が増えたと考えられる。

以上の結果から、論理的な文章を書く能力の育成には、本文から読み取ったことについて自分の考えをもち、理由を添えて感想や意見を書かせることが有効であったと考えられる。

【資料6】「自分の意見を書くときに理由を書くことができますか」



VIII 研究成果と課題

1 成果

- (1) 説明的文章の学習において、理解し評価しながら読む活動を行うことで、主体的な読みに繋がり、筆者の書き方のよさや問題点を読み取れるようになった。
- (2) 説明的文章の学習において、本文から読み取ったことについて自分の考えをもち、根拠を添えて感想や意見を書かせることで、相手に分かりやすく伝えるために論理的な文章を書こうとする意識が芽生え始めた。

2 課題

- (1) 評価しながら読むための教材分析、発問の吟味・検討、児童の実態や発達段階を考慮した指導計画の工夫
- (2) 根拠を明確にして自分の考えを表現させるための継続的な指導

《主な参考文献と資料》

『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 東洋館出版社 2008 年

『論理的に考える力を引き出す』三森ゆりか著 一声社 2002 年

『論理的思考力を育てる説明文の授業』藤田伸一著 学事ブックレット 2008 年

『説明文教材の授業改善事例集』山口県小学校教育研究会国語部著 瀬川榮志 小森茂監修 明治図書 1996 年

『教育科学 国語教育六月号 709 号』河野順子共著 言語技術教育研究所 明治図書 2009 年

『PISA 型読解力が必ず育つ 10 の鉄則』有元秀文著 明治図書 2008 年

『読解力向上プログラム』文部科学省 2005 年

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05122201/014/005.pdf

『評価読みの世界』森田信義 2008 年

<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~higashi-shou/kyouikukennkyuu/kennkyuukousou%2019.htm>

『福島県教育センター国語科における読む能力の向上を図るための指導の在り方』齋藤園子 2006 年

<http://www.center.fks.ed.jp/11kikaku/instance/18/saitou.pdf>

